別記様式

令和６年度学校評価報告書

令和７年３月21日

北海道教育委員会教育長　様

北海道苫小牧東高等学校長　澤　田　慎　也　印

次のとおり令和６年度の学校評価について報告します。

１　本年度の重点目標

1 わかる授業を推進し、基礎的･基本的な知識･技能の確実な定着を図る 2 教育相談活動の充実を図り、生徒理解に立った生徒指導を実践する

２　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	本校定時制生徒の育成すべき資質・能力を明確にし学校目標を共有したうえで、その目標実現のために人的資源を最大限に活用し協働体制を充実することが求められる。	○概ね適正な評価である。 生徒への学校生活への満足度をさらに向上させるよう、改善に取り組んでもらいたい。
改善方策	・教職員がより綿密な連携のもと、研修等を通じ教育目標の共通理解を深める。	
学習指導	生徒1人1人の能力や個性を把握し、実態に則した「分かる授業を」を実施している。	○適切な評価である。 基礎学力の低い生徒も多いと思われるので継続することの喜びを与える学習指導をお願いしたい。
改善方策	・主体的に考えさせる場面を増やし、生徒の学習意欲を向上させる。	
進路指導	進路実現に向けて進路指導員による講演と個人面談は一定の成果があった。 今後、卒業生全員の進路を内定させることができるように取り組んでいく必要がある。	○適切な評価である。 将来的にしっかりと経済的な自立ができるよう職業観を養わるよう努めてもらいたい。。
改善方策	・外部組織や地域との関わりを通して、自分の良さの自覚と社会への参加意欲の向上を図る。	
生活指導 保健関係	日頃の声かけの励行により、生徒の多面的な理解と個性の伸長を図ることができた。	○適切な評価である。 今後も生徒に寄り添い課題克服のための支援を続けるよう願う。
改善方策	・生徒の心情に寄り添った教育相談活動の充実と家庭との連携を図る。	
行　　事 HR活動	生徒会活動・諸行事を通じ、連帯感・帰属意識を高めることができた。	○適切な評価である。 各種行事を通じ、成功体験や達成感を味合わせることにより、自信を持たせるよう取り組んでもらいたい。。
改善方策	・生徒会行事を通して、互いの個性を認め　豊かな心を育成する。	
総合的な探究の時間のほか	インターシップなど体験を通じて、社会へ適応できる力を育成すると共に、課題を見つけて解決方法を探究する力を育成するように努めていきたい。。	○適切な評価である。 自ら課題を見つけ探究する力を育成するよう努めてほしい。
改善方策	振り返りを重視しながら、社会で生きて働く力を育成する。	
公表方法	PTA役員、学校評議員会での説明。本校ホームページにて公表	

３　添付資料
（１）令和６年度自己評価
（２）令和６年度学校関係者評価書